

大人になったらなりたいもの —児童期の性役割観・ジェンダーの発達に関する一考察—

谷 川 賀 苗

I 問 題

子どもは自分を囲む社会の価値観や周りの大人の行動を観察し、自分が所属する社会環境を素直に自分の認知や行動に反映させる。また日常生活において、自分なりに収集した情報を組み立て、行動を取り入れてゆく。

現代社会において、伝統的な性役割観や社会情勢はめまぐるしく変化している。職業に関するステレオタイプについても曖昧になりつつある。社会が男らしい職業、女性らしい職業という結びつきに柔軟になりつつあるということは、子どもの役割行動の認知また獲得とどのように関わっているのであろうか。

このようなジェンダーに影響される発達状況において、子どもたちは大人になってどんな職業に就きたいと考えているのだろうか。また、その職業について、どのようなイメージを描いているのだろうか。

本研究は、児童期の子どもたちに、おとなになってなりたいもの、あこがれの職業とそれについてのイメージを問うことによって、子どもの発達と職業に関するステレオタイプについて検討する。

II 調査方法

1. 調査対象 大阪府 A 市 B 小学校の小学生 3 年生～6 年生
2. サンプル数 198人 (男子 104人 女子 94人)
3. 実施方法 訪問留め置き法 (自由記述式のアンケートを、各クラス担当の先生が配布、回収を行なった)
4. 実施時期 2003年 6 月

5. 標本特性

	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
男子	27人	21人	34人	25人	107人
女子	25人	21人	25人	23人	94人
合計	52人	42人	59人	48人	201人

Ⅲ 結果

1. 性別による「大きくなったらなりたいもの」

①男子の大きくなったらなりたいもの

男子の「大人になったらなりたいもの」の1位は、「サッカー選手」で18.7%、21位「プロの野球選手」が15.9%、そして3位は「食べ物屋さん（パン職人、ケーキ屋、たこ焼き屋）」が7.5%、4位「ゲームの開発」6.5%、5位「医者」3.7%、であった。これらに続いて「バスケットボールの選手」、「空手の選手」「テニスの選手」「消防士」「ロボット開発」が各2.4%という結果で6位～10位の位置を占めた（表1）。

男子のあこがれとしてトップに挙げられた「サッカー選手」は、2002年の重大ニュース（くもん、2002）で挙げられたようにサッカーのワールドカップが日韓共催で行なわれ日本がベスト16に入ったこと、ベッカム・中田・中村のような人気選手の影響であると考えられる。

2位の「プロの野球選手」も、松井秀喜選手やイチローに代表されるメジャーリーグの影響だと考えられる。子どもたちは、国際的舞台上で活躍するヒーロー達に自分も彼らのようにカッコいい、世界が注目してくれるような存在になりたいと夢を描くようだ。

一方で、子どもたちが3位に「食べ物屋さん」を挙げた背景には、将来の夢、あこがれよりもまわりの厳しい社会情勢を踏まえて、将来、現実社会をしっかりと生きてゆくための仕事として、資格や手に職をもつことが大切であると考えたのであろう。子どもたちなりに、現実社会を生きてゆくことを捉えた様子が伺える。

トップ10位の中で、スポーツに関係あるものが「サッカー選手」「プロの野球選手」「バスケットボール」「空手の選手」「テニスの選手」で全体の42.9%であった。やはり、カッコいいものにあこがれているのであろう。

表1 男子の「大きくなったらなりたいもの」

1位	サッカー選手	20人 (18.7)
2位	プロ野球選手	17人 (15.9)
3位	食べ物屋 (パン職人、ケーキ屋、料理人、たこ焼き屋)	8人 (7.5)
4位	ゲーム開発	7人 (6.5)
5位	医者	4人 (3.7)
6位	バスケットボールの選手	3人 (2.8)
	空手の選手	
	テニスの選手	
	消防士	
	ロボット開発	
	研究者	
	パイロット	
	スポーツ関係	
	ラグビーの選手	
15位	大工	2人 (1.9)
	警察官	
	社長	
	芸人	
20位	ペットショップ	
	気象予報士	1 (0.9)
	猟師	
	漫画家	
	ボクサー	
	おもちゃ開発	
	小学校の先生	
	冒険家	
	自衛隊	
	宇宙飛行士	
	電気屋	
	サラリーマン	

N = 107 () は%

②女子の大人になってなりたいもの

女子のなりたいものの第1位に挙げられたのは、「ケーキ屋 (ケーキ屋、アイクリーム屋、菓子職人) で20.0%、そして、2位「保母、幼稚園の先生」13.0%、3位「花屋」、「声優・歌

手、ダンサー」各7.0%、5位「看護婦」6.0%、6位「美容師・散髪屋」「医者・女医」各5.0%。8位からは「漫画家」「学校の先生」「獣医」各3.0%と続いている（表2）。

女子は、自分にふさわしい将来なりたいモデルを、身近な環境の観察を通して学習している様子が伺える。

表2 女子の「大きくなったらなりたいもの」

1位	ケーキ屋（パン屋、菓子職人、アイスクリーム屋）	19 (20.0)
2位	保母・幼稚園の先生	13 (13.8)
3位	花屋	7 (7.4)
	声優・歌手・ダンサー	
5位	看護婦	6 (6.4)
6位	美容師・理髪師	5 (5.3)
	医者・女医	
8位	漫画家	3 (3.2)
	学校の先生	
	獣医	
11位	習字の先生	2 (2.1)
	体操・水泳の選手	
	衣料品店	
	ペットショップ	
15位	薬屋	1 (1.1)
	ピアノの先生	
	喫茶店	
	物を作る	
	犬の保護	
	建築士	
	インテリアコーディネーター	
	画家	
	インターナショナルビジネス	
	日本語の先生	
	トリマー	
	メイクアップアーティスト	
	エレクトーンの先生	
	モデル	
	バイオリニスト	

N=94 ()は%

2. 学年別 「大きくなったらなりたいもの」

① 男子の学年別「大きくなったらなりたいもの」(1位～5位)

学年別に見ると、スポーツ関係「サッカーの選手」「プロの野球選手」が各学年共通にトップを占める(表3)。2位～5位あたりについてみると、小学3年生の男子では、「食べ物屋(パン屋、ケーキ屋、すし屋)」に人気があった。小学4年生の男子は「ロボット開発」「ゲーム開発」を将来やってみたいと考えているようだ。小学5年生では、スポーツ関係に続いて、「パイロット」や「ゲーム開発」を大きくなったらなりたいものに挙げている。小学6年生の男子も、スポーツに関係するものへのあこがれの次に、「ゲーム開発」「医者」を考えているようだ。

表3 男子学年別「大きくなったらなりたいもの」1位～5位*

	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生
1位	サッカー選手	プロ野球選手	サッカー選手	サッカー選手
2位	食べ物屋 空手の選手 大工	ロボットの開発	プロ野球の選手	ラグビー選手 ゲームクリエイター スポーツ関係
3位		ゲームの開発	パイロット	プロ野球の選手 医者
4位			バスケットボールの選手 ゲーム開発	

② 女子の学年別「大きくなったらなりたいもの」

学年別にみると、大きくなってなりたいもののベスト1は、小学3年生の女子では、「ケーキ屋」小学4年生と小学5年生は共に「保母、幼稚園の先生」、小学6年生では、「美容師」

表4 女子学年別「大きくなったらなりたいもの」1位～5位*

	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生
1位	ケーキ屋	保母・幼稚園の先生	保母・幼稚園の先生 医者 ケーキ屋	美容師 花屋 漫画家
2位	保母・学校の先生	学校の先生 習字の先生 花屋 看護婦	歌手 看護婦	
3位	声優			

を挙げている（表4）。ここから、女子の場合、学年別にあこがれる対象、希望が異なっているようだ。学齢が低いほど、身近なものの存在がおおきくなってなりたいもの・あこがれの対象である。一方、小学6年生という小学校の最高学年にもなると、より現実的な仕事、職業が大きくなったらなりたいものの対象と考えられるようだ。

3. 「大きくなってなりたいもの」のイメージ

今回の調査では、「おおきくなってなりたいもの」を子どもたちに尋ねると同時に、そのイメージについても自由記述で回答を求めた。子どもが「大きくなったらなりたいもの」をどんなふうにとらえているかの中に、その子なりの深い価値観が含まれていると考えたからである。

①男子の「大きくなったらなりたいもの」のイメージ

表5は、「おおきくなったらなりたいもの」のイメージについて、男子がどのように「憧れの存在」を捉えているかをリストしたものである。

まず、表5では、「サッカー選手」「プロ野球の選手」「ラグビーの選手」「テニスの選手」「バスケットボールの選手」「ボクサー」といったスポーツに関連あるものもののイメージとしては、

表5 男子の「大きくなったらなりたいもの」のイメージ

サッカー選手	たくましい、優しい、すごい、怒り過ぎない、世界一、頼りになる
プロ野球の選手	笑顔で笑っている、メジャーリーグで活躍する、有名な
ラグビーの選手	普通の、尊敬されるような
医者	優しい
芸人	たくさんの人を笑わす
消防士	命がけで人を助ける、危険な状況で人を助ける
社長	みんなからいい人と思われる
設計士	暖かい
テニスの選手	巧い、
パイロット	かっこいい、安全運転をする
研究者	成果をあげる
バスケットの選手	強い
サラリーマン	普通の
冒険家	こころがやさしい
プロボクサー	強くて優しい
小学校の先生	優しくて厳しい

たくましい、世界一、大活躍する、有名なという感じで捉えられている。また、このような男性的なイメージに加えて「優しさ」「まわりから尊敬される」というイメージを小学生の男子生徒はイメージしていた。

また、「大きくなったらなりたいもの」のイメージとして、目を引くのは、「サッカー選手」「医者」「冒険家」「小学校の先生」とジャンルを問わず、「優しい」と言う価値観を大切にしていることであった。同じに、優しさ、や、まわりから尊敬されると子どもたちはイメージを描いているようだ。

② 女子の大きくなったらなりたいもののイメージ

表6は、女子の「大きくなったらなりたいもの」のイメージをリストしたものである。女子の場合も、男子と同じように「なりたいもの」についてのイメージを、「保母、幼稚園の先生」「医者・女医」「花屋」「看護婦」「インテリアコーディネーター」「学校の先生」「習字の先生」「トリマー」と憧れる対象のジャンルを問わず、「優しさ」があげられているのが注目される点である。

表6 女子の「大きくなったらなりたいもの」のイメージ

ケーキ屋	明るい
保母・幼稚園の先生	優しくてかわいい、時に優しく時に怖い、子ども達に好かれる、元気な
美容師	散髪師：頼られる、明るい
医者	女医：優しい、皆を助けられる
花屋	人気のある、明るい
看護婦	かっこいい、優しい、ちゃんと看護ができる、人の気持ちがわかる
建築士	優しい
インテリアコーディネーター	優しい
インターナショナルビジネス	かっこいい
学校の先生	面白くて優しい
習字の先生	優しいでもしっかり教えてくれる
薬屋	優しい
トリマー	優しい

Ⅳ 考 察

本研究は、児童期の子どもたちに、「大きくなったらなりたいもの」そしてそのイメージを問うことによって、この時期の子どもたちの性役割観と職業の関係を調べた。

子どもがどのように性役割を獲得するかについては、多くの研究が幼児期のかなり早い段階において性役割の分化の萌芽が見られ、すでに3歳児の段階において、幼児は好きなおもちゃを選ぶ状況において、男子は女子よりも自分のジェンダーにふさわしいものを選択する傾向があると報告されている（Kohlberg, L, 1966）。

また、子どもがどのように性役割観を自己の発達に組み入れるかについては、親の期待や働きかけといった直接的な家庭の影響や子どもたちに膨大な量のメッセージを流すマス・メディア、絵本、学校という間接的・社会的環境の影響が考えられる。

例えば、子どもの性役割観の学習についての家庭の影響を取り上げた研究では、Fagotら（1995）は、子どもが家庭における親の性役割行動を観察することの経験の有無、そしてその頻度と子どもの性役割に対する知識に関連があることを報告している。

マスメディアがいかに子どもの性役割観に影響するかについて小川（2001）は、テレビは子どもがジェンダーの行動様式を身につけてゆくのに格好なモデルを呈示すると指摘している。テレビコマーシャルからのメッセージにおいて、女の子は人形と遊び、男の子はロボットと遊ぶ、また女性が掃除機をかける、洗濯物を真っ白く仕上げるといったモデルである。

本研究では、「大きくなってなりたいもの」については、男子では人気ベスト1は、「サッカー」、2位は「プロ野球の選手」とスポーツ関係の職業が挙げられた。そして、それらに描かれているイメージは、「逞しい」「強い」「かっこいい」というものであった。

女子では、人気ベスト1は、「ケーキ屋」、2位は「保母・幼稚園の先生」であった。そしてこれらに描かれたイメージは、「優しい」「おいしい」「楽しい」「元気な」というものであった。

これらの結果の中で、注目すべき点は、男子の場合も女子の場合も、あこがれるジャンルは異なるものの「優しい」というイメージでまずその憧れの対象が捉えられているということである。

児童期の子どもたちは、家庭において直接的に受ける親からのしつけのみならず、学校という教育現場、仲間集団での活動、そしてテレビといったマス・メディアで描かれる性役割のイメージを学習し、そして自らの行動パターンに採り入れていくと考えられる。」

子どもたちに通じるチャンネルは異なっても、まわりの大人が子どもたちに「性差」を個性の1つと捉え、しなやかにそれをのばし、そして子どもたち一人一人がしっかりと自己肯定できるように環境を整えることが大切であると考えられる。

謝 辞

この研究に協力くださった、A市B小学校の先生、小学生の皆さんに心からお礼を申し上げます。

引用文献

Fagot B.I. & Leinback, M.D. 1993 Gender-role development in egalitarian and traditional families. *Sex Roles*, 32. 513-526.

くもん子ども研究所 2002 からぎレポート2002年重大ニュース、Vol. 3 くもん子どもファックス調査

Kohlberg, L. 1966 A cognitive-developmental analysis of children's sex-role concepts and attitudes. In E.E. Maccoby (Ed.) The development of sex differences. Stanford University Press.

小川真知子 2001 伝える—オルタナティブなメディアへ—、伊藤公雄・牟田和恵（編）ジェンダーで学ぶ社会学、世界思想社